



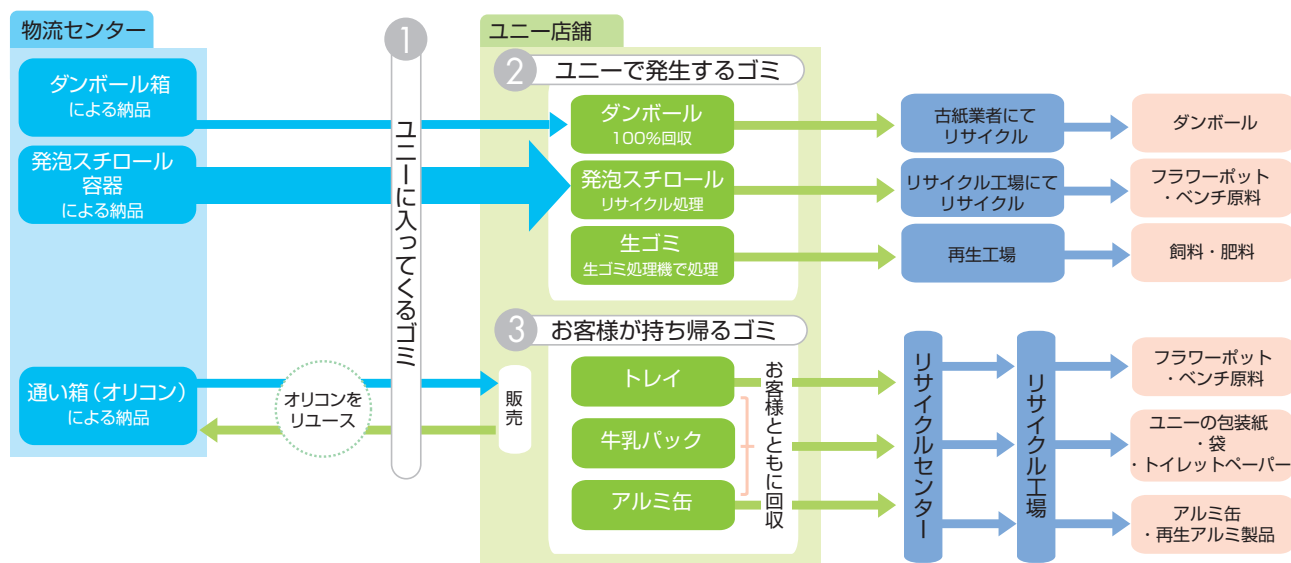
# 環境負荷軽減への取り組み

## 廃棄物削減

廃棄物をできる限り削減するために、商品搬入時の廃棄物を減らすと同時に、店舗で発生する廃棄物をリサイクルすることに取り組んでいます。お客様が商品として持ち帰った後で発生する空容器は店舗で回収、リサイクルセンターを介して再資源化しています。

## 廃棄物削減のための取り組み

### 廃棄物の再資源化



### 1 ユニーに入ってくるゴミ

商品搬入時に商品を入れてきたダンボール箱や発泡スチロールの容器を使い捨てから通い箱(オリコン)にすることによって、廃棄物の発生を抑制しています。

### 2 ユニーで発生するゴミ

店の中での販売活動や商品加工・サービスから発生する廃棄物をリサイクル資源にする取り組みをしています。

1. 発泡スチロールの再資源化 (詳細はP21)
2. 食品廃棄物の再資源化 (詳細はP13,14)
3. ダンボールは100%リサイクル

### 3 お客様が持ち帰るゴミ

牛乳パック(再生紙の原料)やアルミ缶(再生アルミの原料)、食品トレイ(再生プラスチックの原料)は、各店舗にリサイクルボックスを設置し、ゴミの再生利用をお客様と一緒に取り組んでいます。(詳細はP11,12)

## 廃棄物の計量調査

廃棄物を削減するためには、廃棄物の内容や量を把握しなければなりません。そこでユニーでは、2000年から毎年6月の環境月間に、店舗での廃棄物計量調査を実施しています。リサイクル資源に活用することを考慮して、18分類に分別し、部署やテナントなどの排出場所ごとに計量しています。その結果、ダンボールおよび紙類・発泡スチロールなどの商品搬入時に発生する廃棄物が多いことがわかりました。また、食品リサイクル法の対象となる、食品廃棄物が2003年度では全体の約26%であることが確認できました。これらの廃棄物に適正に処理をしリサイクル資源にすることで、廃棄に出す量がかなり削減できる見込みです。2004年4月にオープンしたアピタ大和郡山店は、開店当初から廃棄物計量機を常設し、廃棄物を18分類に

分別し、排出場所(直営担当別、テナント・コンセッションナリー各店別など)毎に計量しています。アピタ大和郡山店には、食品リサイクルに対応して「生ゴミの真空乾燥機」、再生プラスチック対応の「発泡スチロール減容器」を設置し、リサイクル処理し、再生資源として活用しています。今後は、一般廃棄物として排出され、焼却処理されているリサイクル可能な廃棄物(再生できる紙など)の分別を徹底し、更に排出抑制とリサイクル推進に努めます。

